

第17回 「馬」

地域のたから 自慢の逸品

● 仙台市博物館学芸員 佐々木徹

奥州の駿馬

かつて奥州（陸奥国）は、駿馬の産地として有名でした。

平安時代後期（一二世紀）の約一〇〇年間、奥羽の地を治めた平泉藤原氏は、当時の貴族（摂関家）の庄園であった本良庄や高鞍庄の年貢を取りまとめ、それらを領主である貴族らへと送る現地管理者としての役割を担っていました。本良庄は宮城県本吉郡あたり、高鞍庄は岩手県一関市花泉町あたりに



国分町で開かれた馬市（『日本山海名物図絵』東北大学附属図書館蔵）

あった庄園です。この時、それぞれ年貢として定められていたのが金と布と馬でした。何れも当時から奥州の名産としてよく知られたものばかりです。記録の上で「御馬三疋」とありますから、毎年駿馬三匹が選ばれて、京都の貴族のもとへと送り届けられていたのでしょう。

中世伊達氏の貢馬

室町時代から戦国時代にかけて、奥州伊達氏からも室町幕府へ馬が献上されてきました。特に一五世紀後半頃の当主であった伊達成宗は、文明一五年（一四八三）に上洛した際に「馬数百疋引之上洛」とも評せられ、室町幕府の將軍や重臣、京都の寺社に砂金・太刀・銭とともに多くの馬を献上しています。一六世紀前半の当主種宗による貢馬からは、その馬産地が判明しています。それらは、糠部・久慈・閉伊・気仙・本吉といった太平洋沿岸部の諸郡、北上川中下流域の諸郡、さらには蔵王山麓の刈田郡の馬牧で育てられた駿馬で、現在の青森県・岩手県・宮城県にまたがる地域でした。

伊達政宗の父輝宗は、織田信長と誼を通じるため、家臣とともにやはり馬を献上しています。それを受け取った信長とその家臣は「逸物の名馬」と評し、さらに「乗り心地に勝れ、ぜひ秘蔵したい」と書き送っています。

また種宗から政宗の四代にわたって伯楽（馬医）の第一人者を召し抱えていました。先の馬産地で明確に伊達領なのは刈田郡だけですが、奥州の名家伊達氏の駿馬が広く天下に知れ渡っていたことは間違いありません。

仙台藩の貢馬と馬市

將軍家への貢馬は、仙台藩にも引き継がれました。伊達氏は江戸幕府へもしばしば馬を献上し、江戸時代中期以降は盛岡藩南部氏らによる貢馬とともに恒例行事化していききました。それらの馬が將軍の観覧に供されることもありました。引き続き伯楽の第一人者も召し抱えています。

仙台藩では、国分町の馬市も全国的に有名でした。寛永一四年（一六三七）から始まったその馬市は、はじめ秋に行われ、寛文元年（一六六一）からは春の馬市となり、大勢の人々の賑わいのなかで馬の取引が行われていました。取引された馬のなかには、輸送用の荷馬のほか、幕府や諸藩が買い求める乗馬用の良馬もあったといえます。

その国分町は、伊達政宗による仙台城と城下町建設の折に、陸奥国分寺（若林区木ノ下）近くの町場（国分日町）の住民が移って成立した町として知られています。しかしその移住以前から、政宗が馬一匹を購入するなど、国分寺の町場は馬市も立つような商業・交通の中心地だったと考えられています。仙台藩伊達氏は、貢馬の伝統だけでなく、馬市の伝統をも引き継いでいたのです。

江戸時代後期、仙台藩の馬は「日本二かくれなきもの」との評判を得ていました。その背景には、こういった「名馬の歴史」があったのです。

喜多川歌麿「芸者亀吉」(重要美術品)
公益財団法人 平木浮世絵財団蔵

7/17(金) ~ 9/6(日)

【前期】7/17(金)~8/9(日)
【後期】8/11(火)~9/6(日)
※会期中、一部展示替えを行います。

特別展

ご覧あれ 浮世絵の華

—歌麿・北斎・広重 平木コレクションの名品—

【観覧料】一般：1,200円 大学・高校生：900円
小・中学生：500円

（チケット販売所）藤崎、チケットぴあ（Pコード766-805）、ローソンチケット（Lコード22977）、セブンチケット（セブン-イレブン店頭）、イープラス（http://eplus.jp/）、金港堂書店（本店・泉パークタウン店）、あゆみBOOKS一番町店、ミヤギテレビ事業部

■主催：「浮世絵の華」仙台展実行委員会（仙台市博物館・ミヤギテレビ）、公益財団法人 平木浮世絵財団

第32回 仙台市史講座

江戸時代の松陵

—旧松森村とその周辺—

講師：堀田 幸義氏
（宮城教育大学准教授、元仙台市史編さん調査分析委員）

江戸時代の松森村の様子、村にあった藩の「在所」と藩士矢野家、藩の年中行事「野始め」のことなどを取りあげます。

日時：平成27年9月12日(土)13:30-15:00
場所：仙台市松陵市民センター
○入場無料 申込制(定員:60名)

※聴講ご希望の方は、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、仙台市博物館「第32回仙台市史講座」係まで。
※1名につき1通の往復はがきでお申込みください
※応募多数の場合は抽選となります。
※申込締切：8/26(水) ※切当日消印有効

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM
TEL:022-225-3074

開館時間：午前9時～午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●8月の休館日：毎週月曜日
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/